

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果分析 令和4年11月学力向上委員会

1 全国・東京都・本校の各教科における平均正答率 (単位 %)

	国語	算数	理科
全国	65.6	63.2	63.3
東京都	69	67	65
本校	69	69	70
本校 目標値	都平均+1	都平均+1	都平均+1

\* 本校目標値は「令和4年度確かな学力向上推進プラン」による

国語は都平均と同じ、算数は都平均+2%、理科は都平均+5となり、今年度の確かな学力向上プランの目標値を概ね達成することができました。国語を中心に、学力向上に向けて授業改善を更に進めていくことが求められます。

2 教科ごとの結果分析

国語

ア 正答数の分布 (A層～D層) ※この4分位は本校の値

	正答数	児童数(人)	割合 (%)
A層	13～14問	27	22
B層	11～12問	25	21
C層	9～10問	35	29
D層	0～8問	35	29

イ 正答数が低い問題2例

- ㊦ - 4 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。(A 話すこと・聞くこと)
- ㊦ - 2 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。(B 書くこと)

## ウ 分析(本校児童が得意としていること、苦手としていること)

この結果から見ると、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」に課題があるように思われるが、誤答の内訳を分析すると、次のような実態が見えてくる。

目 - 4 の誤答は、意見の選択はできているものの、自分の考えとしての解決策をもてないため、書くことができていないパターンが多かった。

目 - 2 の誤答は、文章の書き方の良さを読み取れていないため、書くこともできていない。というパターンであった。

つまり、そもそも文章を「読むこと」に課題があるということが分かる。

学習指導要領 P150 の ○考えの形成 にある、「文章を読んで理解したことに基づくとは、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基にすることである。また、自分の考えをまとめるとは、文章を読んで理解したことについて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成すること」の力をつける必要がある。

これらの分析から、本校では、国語の教科書のように繰り返し音読している文章だけでなく、初見の文章を用意し、それを読んで考えを書く機会を設けるようにしていくと良いだろう。

授業では、めあてや振り返り等を自分の言葉で書くように指導している。そうすることで、自分の考えを整理し、文章にする力を養っていくことができるだろう。

## 算数

### ア 正答数の分布(A層～D層)※この4分位は本校の値

	正答数	児童数(人)	割合(%)
A層	15～16	19	15
B層	13～14	31	25
C層	10～12	36	30
D層	0～9	36	30

### イ 正答数が都平均以下の問題(3例)

#### ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる・・・1(4)

文章を読んで、数の処理の仕方を考察するという問題であるが、都正答率 40.7%に対し、本校正答率 41.8%と全体的に正答率が低い。概数における切り捨ての考え方が必要な場面であることを理解し、正答を選択する必要がある。見積りの考え方と問題の趣旨の読み取りが重要なので全国的にも多くの児童が躓いている設問ではないかと考えられる。

#### ・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる・・・2(2)

帯グラフを見て、基準量・割合を理解して計算する問題であるが、都正答率 72.3%に対し、本校正答率 67.2%と都に比べてやや正答率が落ちる。無回答や完全な誤答が 1 割以上と、理解が出来ていない児童

が多い。

**・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している…2(3)**

数量が変化しても割合自体は変化しないという、日常においても基本的な考え方を生かした問題である。  
(ジュースを二人で分けても。味自体は濃くも薄くもならない。)しかしながら、都正答率 29.1%に対し、本校正答率 24.6%と全体的に最も正答率が低い。

**ウ 分析(本校児童が得意としていること、苦手としていること)**

- ・図形の意味や性質について考察する問題ではプログラミング的思考に関する内容が出題されている。これに対し、本校は4問全て都正答率を超えており、得意な傾向が見られる。
- ・全国的な回答傾向でもそうだが、問題の読み取りや表・グラフを用いた内容についての正答率が低い。国語的な読解力を高め、問題の意味を正しく理解することが重要だと考えられる。基本的な知識や思考力は十分にある児童が多いので、さらに中間層を増やすためにも基礎・基本の定着に加えて読解力を高められる工夫や学習支援を行う必要がある。

**理科**

**ア 正答数の分布(A層～D層)※この4分位は本校の値**

	正答数	児童数(人)	割合(%)
A層	16～17	18	14.8
B層	14～15	25	20.5
C層	11～13	43	35.2
D層	0～10	36	29.5

**イ 正答数が都平均以下の問題(2例)・無回答がと平均より高い問題(1例)**

**・実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ…3(2)**

問題文だけでなく、会話文や実験に対する予想・方法・結果等を読んでから答える形式の場合、読解力に起因するのか、無回答にしてしまった児童が4.1%いた。

**・結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ…4(3)**

複数の情報が含まれる資料の読み取りに課題があることが伺える。

**・問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く…3(4)**

「下線部のようにまとめたわけを上【結果】を使って書きましょう。」というように、設問の条件に沿って記述する形式の場合、無回答が15.6%であり、書くことに対する課題が伺える。

**ウ 分析(本校児童が得意としていること、苦手としていること)**

- ・平均正答率は東京都65%に対して本校70%と上回っている。(全国は63.3%)
- ・高学年で実施した学習内容についての定着が良い。
- ・他教科と同様に資料や文章を読み取って答える形式、条件に沿って記述形式で答えること課題がある。